

# 平成 27 年度 千早赤阪村立学校園 評価報告書

学校園名（千早小吹台小学校）

校園長名（山下 桂滋）

## 1. 教育目標

「確かな学力」・「豊かな心」・「健康な身体」の育成

～楽しい学校・明るい学校・開かれた学校～

～すすんで学ぶ子・仲良く助け合う子

自然やものを大切にする子・元気でたくましい子～

～ひとりひとりを大切にする教師・授業を大切にする教師・情熱にあふれる教師～

## 2. 経営方針

「やさしさと笑顔いっぱいの学校」づくり

- 人権教育の推進
- 「確かな学力」の定着
- 「豊かな心」の育成
- 「健康な身体」の育成

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>○<u>学力向上</u> 学力向上の取組みに、「学テ」の分析・考察を反映させる。</p> <p>○<u>言語活動の充実・読書活動の推進</u> 思いを伝え合う力を国語科研究授業を中心について高める。委員会・ボランティア支援を生かした読書指導を行う。</p> <p>○<u>支援教育の充実</u> 関係諸機関と連携し、相談・支援体制を充実させる。</p>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題分析（教員も解答）、結果分析をもとにした、10月以降の授業改善実施、使用プリント選択への反映。</li> <li>・ 校内研究授業（国語6、算数1、社会1、道徳1回、）公開授業（支援教育2回、道徳1日全クラス）、「ノート見学ツアー」、「言葉のクロッキー」の実施。</li> <li>・ ホームリーディング2回実施。図書委員会の読書啓発活動、読み聞かせボランティアのおはなし会、図書ボランティアの図書室開放を実施。</li> <li>・ 支援教育推進委、支援交流会の開催。SSW、SC、保健センター、外部機関との連携。</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書く取組みで言語力向上、算数科では数値で学力向上がみられた。</li> <li>・ 目標に対する評価を明確にした授業研究を、行うことができた。</li> <li>・ 朝読書、図書室利用の様子を見ても、読書習慣は浸透している。</li> <li>・ 支援教育では、個に応じた指導の徹底が課題。</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科を中心にした、思いを伝え合う力の育成に取り組む研究は継続。</li> <li>・ 算数の習熟度別分割授業のコース分けを行う、各単元初めのレディネステスト、音読指導について年度初めに新体制で情報共有。</li> <li>・ 交流や合同学習での支援教育で、個別の支援計画に即した計画作り。</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		II 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<p>○心の教育の充実 副読本等を活用した道徳教育を、価値項目・内容漏れなく実施する。</p> <p>○体力づくりの推進 健康安全・体育的行事の充実を図る。</p> <p>○食育の充実 食事の楽しさや重要性に気付かせ、健康の保持増進や衛生管理につながる指導を行う。</p>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画通り、全価値項目を網羅した35時間の授業実践、実施記録の管理。「道徳デー」企画（2月18日）の実施 [村内公開]。</li> <li>・スポーツテスト、水泳指導、運動会、なわとび運動、かけ足運動、マラソン大会の実施。</li> <li>・保健主事、保健給食担当と連携した栄養教諭、給食センター管理栄養士による食育授業、給食時間帯の食指導。</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳は、平生から、各学年で授業がきちんと実践されてきた。</li> <li>・体育的行事は、計画通り実施。健康安全面では、手洗い放送も行った。</li> <li>・学校生活だけではなく、家庭生活での啓発にも取り組み、課題であった朝食摂取率が改善し、上昇した。</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から、アクションプランを学校教育計画に掲載予定。</li> <li>・年度末から、スポーツテストの結果分析の公表を実施。</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<p>○<u>生命尊重の取組み・防災教育の推進</u> 大規模災害を想定した地域、行政等と連携した取組み、主体的に判断・行動する力を育む防災教育・安全教育の充実を図る。</p> <p>○<u>いじめ・虐待防止</u> 気になる児童についての情報交換、アンケートの分析を生かし、基本方針に即したいじめ・虐待の防止・対応をめざす。</p>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生対象に、大雨・洪水・落雷・竜巻から身を守ろうというテーマで、理科と合科の、大阪管区气象台による授業を実施。</li> <li>・土曜参観（1月16日）で、大阪管区气象台の全校授業、保護者・地域・げんき保育園連携の地震避難訓練、引渡し訓練を実施。</li> <li>・こころと体とくらしのアンケートを毎月全児童対象に実施。今年度から担当集約の前に、低、中、高学年ごとに担任が情報交換する形式に。</li> <li>・虐待防止、対応に関する夏季職員研修（講師：塩見SSW）を実施。</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪管区气象台との連携は3年目。防災教育拠点校としての活動を期待されている。</li> <li>・土曜参観は2年目の実施で、行政からの助言や支援を早くからいただいたり、げんき保育園の協力を仰いだりすることが今年度はできた。</li> <li>・いじめ、不登校対策については、対応委員会も設ける形になっているが、職員全体での情報・方針の共有を図るタイミングに検討の余地がある。</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜参観は、同じ形を継続して慣れていく部分と、より実践的、即応的な形に変えていく部分とのすり合わせが必要。</li> <li>・いじめ、不登校対策に限らず、管理職や担当を核にした「報・連・相」をこれからも重視。</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ-④ 人権尊重の教育の推進
P	重点目標	○人権尊重の教育の推進 「子ども」「同和問題」「男女平等」「障がい者」「在日外国人」等に係る人権問題の解決をめざした教育の推進に向け、職員研修や計画的な授業実践を進める。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育計画にある人権教育全体計画、学年別指導計画を基に、額学年の人権教育学習内容（年間）を見直し。</li> <li>・各学期1回、人権ウィークを設定。学習内容（年間）を重点的に実施。</li> <li>・人権教育に関する夏季職員研修（講師：阪本省三先生）を実施。 ご推薦いただいた図書の購入。</li> <li>・人権教育実践報告の集約と報告集の回覧。</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権ウィークを学期ごとに設定すると、その期間を意識して準備や実践に取り組むようになった。</li> <li>・外国籍をもつ保護者の方お二人にご協力いただき、ゲストティーチャーとして、国際理解教育に関する授業をしていただくことができた（低学年）。</li> <li>・人権教育の夏季研修を実施したのは良かった。</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権ウィーク期間中の取り組み内容について、事前に情報共有し、教員相互に意識する形を検討中。</li> </ul>

## 4. 教育自己評価

### 【教職員による評価】

- ・地域連携については、土曜参観以外にも、ふだんから登下校の見守りや、支援ボランティアの方による授業・行事支援、さまざまな事業でお世話になっているが、次年度から、学校支援地域本部事務局は、地域コーディネーターの方を位置づける形で運営する。
- ・その他、各欄「自己評価」の通り

### 【外部アンケート等】保護者による学校診断より

#### I 学力向上と教育力の充実

- ・基礎的な学力が定着に身についている 肯定的評価 → 13ポイント上昇 99%
- ・授業は工夫されていてよく分かる 肯定的評価 → 8ポイント上昇 96%

#### II 豊かでたくましい人間性の育成

- ・豊かな心をもった子供を育てている 肯定的評価 → 1ポイント上昇 97%
- ・道徳で特に育成を望みたい価値項目のうち、「他の人とのかかわりに関すること」の「そう思う」が約80%（他の3項目は40～60%）。
- ・世界のさまざまな問題点にも視野を広げた道徳教育を期待。

#### III 安全安心な学校づくりの推進

- ・安全に日頃からよく気配りしている 肯定的評価 → 昨年度同様 97%
- ・防災行事は有意義で、継続に価値がある。
- ・経験の積み重ねが大事で、同じ形・内容で年1回を継続すべきだが、いろいろな改善や工夫を取り入れて新たな試みも必要。
- ・登下校時の集団下校体制の充実を要望。
- ・性についての安全教育の推進を要望。

#### II-④ 人権尊重の教育の推進

- ・小規模・単学級の集団生活の中にも、いろいろな出会い・交流の工夫を希望。

## 5. 学校園関係者評価

<学校評議員会（3月22日〔火〕開催）より>

### I 学力向上と教育力の充実

- ・まとまり、つながりのある前向きな学級集団作りが、学力向上につながる。考えて書く活動は、重要である。さまざまな体験活動のある学習も重要である。

### II 豊かでたくましい人間性の育成

- ・マラソン大会や金剛登山は、仲間や地域の方に助けられ、たくましく育つ機会になっている。温かい地域に生まれ、思いやりの心も育っている。

### III 安全安心な学校づくりの推進

- ・子ども安全見守り隊、ボランティア支援、防災での地域連携などの取組みに成果がある。

### II-④ 人権尊重の教育の推進

- ・心を耕す道徳だけでなく、法や歴史を踏まえた人権教育の推進が必要であると理解。

## 6. 第三者評価

<校内研究授業で指導助言者として招聘した大学関係者より>

○楽しい学校・明るい学校・開かれた学校である。

○「算数科」：算数は系統学問であるからこそ、既習内容を踏まえた上での、新しい学びにつながる話題提示・課題設定が必要。抽象化する高学年段階で具体物提示をしたりして、逆戻りさせてはいけない。本時のめあてを確認する段階で、その授業の目標に迫る部分に、思考活動を焦点化させるべきである。

○「総合的な学習の時間」：パフォーマンス課題、学習の目標と計画、つけたい力が明確になったルーブリック、探究的な活動、発表会等アウトプットのある活動、自己成長記録の作成、評価セッションの順に構成された単元作りが重要である。

○「社会科」：思いを伝え合うコミュニケーションは、聞くことに基軸がある。聞く力を育てることが重要である。学習課題の設定は、確実に子供たちに知ってほしい、考えてほしいことに絞って行うべきである。